

(4) カーネーション

ア 各病害虫の防除

萎凋病

疫病

さび病

立枯病

斑点病

萎凋細菌病

モザイク病(CMV)

アブラムシ類

アザミウマ類

ハスモンヨトウ

シロイチモジヨトウ

タバコガ類

ハダニ類

クロウリハムシ

センチュウ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

萎凋病

(耕種的・物理的防除)

- 1 土壌を蒸気消毒(80℃以上で10～15分間)する。
- 2 発生の多いほ場では萎凋病抵抗性品種を用いる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。
- 2 薬剤により土壌消毒を行う。

疫病

(耕種的・物理的防除)

- 1 土壌を蒸気消毒(80℃以上で10～15分間)する。
 - 2 発病株を処分する。発病したらなるべくかん水を控え、特に頭上かん水を避ける。
- ※ほ揚が冠水すると多発する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。

さび病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病葉は、直ちに取り除く。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病ごく初期から薬剤を7～10日おきに施用(散布)する。

立枯病

(耕種的・物理的防除)

- 1 麦稈は生のまますき込まない。
- ※ムギ類立枯病と同じ病原菌により起こる。
※発病株は除去する。
- 2 育苗箱等資材を消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
 - 3 用土、床土及び本ぼの土壌を蒸気消毒(80℃以上で10～15分間)するか、[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(散布)する。
- 2 薬剤により土壌消毒を行う。

斑点病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病茎葉を完全に取り除く。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 6月下旬ころ又は発生ごく初期から下記薬剤のいずれかを7～10日おきに数回施用(散布)する。
- ※ダコニールは着色後を避ける。

萎凋細菌病

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病株は直ちに抜き取る。

2 土壌を蒸気消毒(80℃以上で10～15分間)するか、[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。
※テッシンノ系などの中には抵抗性が認められる品種がある。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 薬剤により土壌消毒([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)を行う。

モザイク病(CMV)

(耕種的・物理的防除)

- 1 ウイルスフリー株を導入する。
- 2 媒介虫アブラムシ類の施設内への侵入を防虫ネットで防止する。
- 3 はさみ等の器具を消毒する。
- 4 発病株は直ちに抜き取る。

(薬剤防除)

1 [本項のアブラムシ類の防除](#)に基づき防除を行う。

アブラムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。
- 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
- 4 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法的項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合は、薬剤を施用(散布)する。

アザミウマ類

・[共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い0.4mm以下の防虫ネットが必要である。
- 2 パイプハウスのサイド開口部に光反射交織ネットを展張することで、アザミウマの侵入を抑制し、花器への寄生を妨げることで、被害軽減効果が見込まれる。ただし、完全に侵入を阻止するものではないため、アザミウマの生息密度が高い秋季までの被害軽減効果は小さく、発生初期である冬季から春季にかけて効果がある。(令和7年度試験研究成果普及情報)。
- 3 ほ場周辺の雑草は増殖源になるため、除去する。
- 4 粘着テープにより成虫を誘殺する。本種は特に青色に誘引される。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 生物農薬は予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。

2 キルパーを用いた病害虫まん延防止([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」](#)を参照)([農薬登録情報](#))

3 発生が予想される場合には、薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なる系統から薬剤を選びローテーション散布を行う薬剤を施用(散布)する。

※アザミウマの種類により薬剤感受性が異なる。

ハスモンヨトウ

・[共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 BT 剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) **【ハスモンヨトウ】・【ヨトウムシ類】**

- 1 生物農薬は予防的に散布する。
- 2 交信かく乱剤を活用する。
- 3 発生初期から薬剤を散布する。

シロイチモジヨトウ

・ [共通防除の章のシロイチモジヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 作物残さを適切に処分する。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(薬剤防除) **【シロイチモジヨトウ】・【ヨトウムシ類】**

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

タバコガ類

・ [共通防除の章のオオタバコガの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 3 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- 4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。
- 2 寄生果を見つけ次第、除去する。
- 3 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いため、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 4 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- 5 BT 剤を活用した防除を行う。

- 6 作物残さを適切に処分する。
- 7 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたりほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 BT 剤を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。なお、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうので、早期発見、早期防除に重点を置く。

ハダニ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を散布する。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項](#)を参照する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

クロウリハムシ

(耕種的・物理的防除)

- 1 施設周辺の雑草は発生源となるので、普段からよく除草しておく。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

センチュウ類

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(物理的防除)

- 1 蒸気消毒を行う ([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用（散布）する。